

二

次の文章をよく読んで、設問に対する答えを、解答用紙の該当欄に記入、またはマークしなさい。

由来ばくの最も嫌いなものは、善意と純情との二つにつきる。

考えてみると、およそ世の中に、善意の善人ほど始末に困るものはないのである。ぼく自身の記憶からいっても、ぼくは善意、純情の善人から、思わぬ迷惑をかけられた苦い経験は数限りなくあるが、聡明な悪人から苦^Aハイを嘗^なめさせられた覚えは、かえってほとんどないからである。悪人というものは、ぼくにとつては案外始末のよい、付き合ひ易い人間なのだ。という意味は、悪人というのは概して聡明な人間に決まっているし、それに悪というものの自体に、

ア

現象的には無限の変化を

示しているかもしれないが、本質的には自らにして基本的グラマーとでもいうべきものがあるからである。悪は決して無法ではない。そこでまずぼくの方で、彼らの悪のグラマーを一応心得てさえいれば、決して彼らは無^Bキ道に、下手な剣術使用のような手では打つてこない。

イ

多くの場合、彼らは彼らのグラマーが相手によつても心得られていると気づけば、その相手に対しては仕掛けをしないのが常のようである。

それにひきかえ、善意、純情の犯す悪ほど困つたものはない。第一に退屈である。

ウ

最もいけないのは、彼らはた

だその動機が善意であるというだけの理由で、一切の責任は解除されるものとも考えているらしい。

かりにぼくがある不当の迷惑を蒙^{こうむ}つたと仮定する。開き直つて詰問すると、彼らはさも待っていましたとでもいわんばかりに、切々、咄^{とつとつ}々としてその善意を語り、純情を披瀝^{ひき}する。驚いたことに、途^Cタンにぼくは、結果であるところの不当な被害を、黙々として忍ばなければならぬばかりか、おまけに底知れぬ彼らの善意に対し、逆にぼくは深¹く一¹揖^{うや}して、深甚な感謝をささ示さなければならぬという、まことに奇怪な義務を負っていることを発見する。驚くべき錦^Dの御旗^{ゆき}なのだ。もしそれ純情にいたつては、世には人間四十を過ぎ、五十を越え、なおかつその小児のごとき純情を売り物にしているという、不思議な人物さえ現にいるのだ。だが、四十を越えた純情などというのは、ぼくにはほとんど精神的奇形としか思えないのである。

善意から起こる近所迷惑の最も悪い点は一にその無法^{むぼう}さにある。無^む文^{ぶん}法^{ぽう}にある。警^{けい}戒^{かい}の手が利かぬのだ。悪人における始

末のよさは、彼らのゲームにルールがあること、したがって、ルールにしたがって警戒をさえていけば、彼らはむしろきわめて付き合やすい、後くされのない人たちばかりなのだ。ところが、善人のゲームにはルールがない。どこから飛んでくるかわからぬ一撃を、絶えずほくは恟々^{きょうきょう}としておそれなければならぬのである。

その意味からいえば、ほくは聡明な悪人こそは地の塩^{注1}であり、世の宝であるときえ信じている。狡知^{さうち}とか、奸知^{けんち}とか、権謀とか、術数^{じゆすう}とかは、およそ世の道学的価値観念からしては評判の悪いものであるが、むしろほくはこれらマキアベリズムの名とともに連想される一切の観念は、それによって欺かれる愚かな善人さえいなくなれば、すべてこれ得難い美德だとさえ思っているのだが、どうだろうか。

友情というものがある。一応常識では、人間相互の深い尊敬によつてのみ成立し、永続するもののように説かれているが、年来ほくは深い疑いをもっている。むしろ正直なところ真の友情とは、相互間の正しい軽蔑の上においてこそ、はじめて永続性をもつものではないのだろうか。

「世にも美しい相互間の崇敬によつて結ばれた」といわれるニーチェとワグナーの友情が、僅々^{きんせん}数年にしてはやくも無残な破綻を見たということも、ほくにはむしろ最初からの当然結果だとさえ思えるのだ。^{注2}伯牙^{はくが}に対する鍾子期^{しゆうしき}の伝説的友情が、前者の人間全体に対するそれではなく、単に琴における伯牙の技に対する知音としてだけで伝えられているのは幸いである。伯牙^{はくが}という奴^{やつ}は馬鹿であるが、あの琴の技だけはなんとしても絶品^{せつひん}だという、もしそうした根拠の上にあの友情が成立していたのであれば、ほくなどむしろほとんど考えられる限りの理想的な友情だったのではないかとの思いがする。

友情とは、^{注3}相手の人間に対する九分の侮蔑と、その侮蔑をもつてすべし、なおかつ磨消し切れぬ残る一分に対するどうにもならぬ畏敬と、この両者の配合の上に成立する時においてこそ、最も永続性の可能性があるのではあるまいか。十分に対するベタ惚^ほれの盲目友情こそ、まことにもつて禍なるかな、である。

金はいらぬ、名譽はいらぬ、自分はただ無欲でしてと、こんな大それた言葉を軽々しく口にできる人間ほど、ほくをしてアクビを催させる存在はない。

それに反して、金が好きで、女が好きで、名譽心が強くて、利得になることならなんでもする、という人たちほど、ぼくは付き合いやすい人間を知らぬのだ。第一、サバサバしていて気持がよい。安心して付き合える。金が好きでも、ぼくに金さえなければ取られる心配はないし、女が好きでも、ぼくが男である限り迷惑を蒙るおそれはない。名譽心が強ければ、どこかよそでそれを掴んでくれればよいのだし、利得になることならどんなことでもするといつても、ぼくに利権さえなければ一切は風馬牛⁴である。これならば常に淡々として、君子の交わりができるからである。

金がいらぬという男は怖ろしい。名譽がいらぬという男も怖ろしい。無私、無欲、滅私奉公などという人間にいたっては、ぼくは逸早くおぞ気をふるって、嚴重な警戒を怠らぬようにしてきている。いいかえれば、この種の間人は何をしでかすかわからぬからである。しかも情けないことに、そうした警戒をしておいて、後になってよかつたと思うことはあつても、後悔したなどということは一切もない。

近來のぼくは偽善者として悪名高いそうである。だが、もしさいわいにしてそれが眞実ならば、ぼくは非常に嬉しいと思っている。ぼくは年來の念願だつた偽善修業も、ようやく齡知命に近づいて、ほほそままで到達しえたかと思うと、いささかもつて嬉しいのである。

景岳橋本左内⁵でないが、ぼくもまた十五にして稚心を去ることを念願とした。そしてさらに二十代以來は、いかにして偽善者となり、いかにして悪人となるかに、苦心修業に努めて来たからである。それにもかかわらず、ぼく自身では今日なお時に、無意識に、ぼくの純情や善意がぼくを裏切り、思わぬぶざまな道化踊りを演じるのを、修業の未熟と密かに深く恥じるところだつただけに、この定評、いささかぼくを満足させてくれるのだ。

もつとも、これはなにもぼくだけが一人悪人となり、偽善者たることを念願するのではない。ぼくはむしろ世上一人でも多くの聡明なる悪人、偽善者の増加することを、どれだけ希求しているかしれぬのである。理想をいえば、もしこの世界に一人として善意の善人はいなくなり、一人の純情の成人小児もいなくなれば、人生はどんなに楽しいものであろうか、考えるだけでも胸のときめきを覚えるのだ。その時こそは誰一人、不当、不法なルール外の迷惑を蒙るものはなく、すべて整然たるルー⁶

ルをまもるフェアプレーのみの行われる世界となるだろうからである。

されば世のすべての悪人と偽善者との上に祝福あれ！

(中野好夫「悪人礼賛」による)

注1 地の塩¹神を信じる者は、腐敗を防ぐ塩のように人の心の腐敗をとどめなければならないというキリスト教の教えに基づく表現。

問1 傍線部A「ハイ」、傍線部C「タン」と同じ漢字が用いられる組み合わせを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 A 納ハイの挨拶をする。 C 負タンが大きい。
- 2 A ハイ刊に追い込まれる。 C 事件の発タンとなる。
- 3 A 異質なものをハイ除する。 C タン調な生活を送る。
- 4 A 賜ハイを抱く。 C 戦タンを開く。

問2 傍線部B「キ」を、漢字で記しなさい。

問3 傍線部D「御旗」の読みを、ひらがなで記しなさい。

問4 空欄

ア

ウ

に入る語の組み合わせとして正しいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマーク

しなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|
| 1 | ア | かえって | イ | しかし | ウ | むしろ |
| 2 | ア | なるほど | イ | むしろ | ウ | さらに |
| 3 | ア | あるいは | イ | なるほど | ウ | かりに |
| 4 | ア | かりに | イ | ところが | ウ | むしろ |

問5 傍線部1「深く一揖して」の言い換えとしてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 心底から恥じ入って
- 2 たいそう困惑して
- 3 深々とお辞儀をして
- 4 ひどく後悔して

問6 傍線部2「伯牙に対する鍾子期の伝説的友情」に関し、中国の『呂氏春秋』には次のような一節がある。

鍾子期死、伯牙破レ琴絶レ絃、終身不ニ復鼓レ琴。以為、世無下足ニ復為鼓レ琴者上。

これに関連し、①②の設問の答えを、解答用紙の該当欄に記入、またはマークしなさい。

① 原文の傍線部を、訓点に従って読み下す場合、五番目に読む文字はどれか。次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 足 2 鼓 3 琴 4 者

② 右の一節の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 鍾子期の死因は、伯牙が琴を弾かなくなってしまうことに対し、残念な思いを積もらせた点にあった。
- 2 鍾子期の死は、伯牙の心をひどく傷つけてしまい、しばらく琴を手を取ることためらわせたのであった。
- 3 鍾子期の死後、伯牙はもはや自分の琴をきかせるに値する人はいなくなったとして、二度と琴を弾じなかった。
- 4 鍾子期が死んだ後は、彼の琴を弾きこなせる者がいなくなるだろうと思い、伯牙は鍾子期の琴の絃を断ち切った。

問7 傍線部3「相手の人間に対するこの両者の配合」とあるが、これと同じ意味となる語句を、本文中より五文字で抜き出しなさい。

問8 傍線部4「風馬牛」の言い換えとしてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 馬の耳に念仏
- 2 対岸の火事
- 3 不即不離
- 4 他山の石

問9 傍線部5「思わぬぶざまな道化踊りを演じる」の例としてもっともふさわしいと考えられるものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 善意をもつてとつた行為に眉をひそめられたときに、自身の純情ぶりをこんこんと説くこと。
- 2 無私・無欲の人間に対して警戒しながら接したことに対し、正当防衛だと自己弁護すること。
- 3 友人に惚れこんでしまうのは危険であると考え、一定の距離をとり打ち解けられないこと。
- 4 他人から無償の愛を注がれたにもかかわらず、素直に感謝して喜びを表に出せないこと。

問10 傍線部6「整然たるルール」と同じ意味となる語句を、本文中より六文字で抜き出しなさい。

問11 本文の内容と合致するものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 純情な善人は、他人に不当な迷惑をかけてしまうので、始末に困る聡明な極悪人だと言わざるを得ない。
- 2 筆者は偽善者であるために、同類の人間たる悪人を忌避することなく、さっぱりとした付き合いができる。
- 3 善意の善人がいなくなれば、道徳的概念も評価が転じて、非情さも美德としてとらえられるようになる。
- 4 筆者は、偽善者と善意の善人とがいがみ合うこともなく、共存していける社会の到来を心の底から願っている。